

継子岳(2858.9m) 平成21年4月12日(日)

メンバー:I.O, K.O (記) 天候:晴

コースタイム:チャオ御岳スキー場 Gondola 山頂 8:35 ~ 森林限界(9:35-9:50) ~ 2600m 下山地点(10:20)
~ 継子岳頂上(11:50-12:20) ~ 相棒と合流(13:20) ~ スキー場 Gondola 乗り場 14:45

概要:この週は気温がぐんぐん上がり、初夏を思わす天気となり、これだと継子岳の雪もゆるみ、状態は良いのではないかと判断し、出かけることにした。木曾からチャオ御岳スキー場に向かい、朝8時から運行する Gondola で終点まで上がった。料金は片道一人 1050 円。ここのスキー場にはまだまだ雪がたっぷりあり、ボーダーがたくさんやって来て、かなりの賑わいであった。

シールとスノーシューをそれぞれ着用し、残されたわだちに沿って、樹林帯の中を登ること約1時間少して、森林限界の見通しのよい場所に出た。ここから上部は斜面が急になっている。雪もまだ堅いので、用心して登山アイゼンに履き替えることにした。相棒はミニスキーをデポ、歩いて頂上往復することにした。登るにつれて傾斜が増し、下りの時は雪が団子になることを恐れた。こここのところ、急斜面のアイゼン歩行に慣れていなかったため、私の判断で早い目に相棒を下らせることにした。このあとは単独で頂上を目指すことにした。すでに単独者が2人先行している。後続には2人パーティが続いていた。スキーアイゼンで登っていた後続パーティも 2700m 辺りで登山アイゼンに替えていた。頂上近くはまだ雪は堅く、下りの滑降を心配しながら、正午前に頂上に到着。頂上からの眺めは雄大であった。王滝側頂上へ続く大雪原に古いトレースが残っていた。王滝側に縦走するのもいいだろう。独立峰の御岳で、このような無風の天候に恵まれることは稀である。乗鞍の眺めなどを楽しみ、滑降の準備をする。すでに先行した2人は上手にジャンプターンを決めて下っていった。2人ともヘルメットを着用していた。

さて、ミニスキーを固定し下降を開始。雄壮にダウンヒルと思いきや、ミニスキーの不安定さが露呈、2・3回ターンしたところで、躊躇してしまった。もし滑落したら下まで止まらないであろう急斜面、ミニスキーの限界を知らされた。兼用靴でなく登山靴であったことも、不安材料となった。安全第一、岩場に斜滑降で逃げ登山アイゼンに履き替え、板を担いで下ることにした。このような急斜面で雪が堅いときは、技術があってもノーマル板でかつ兼用ブーツでないとなかなか難しいと実感した。

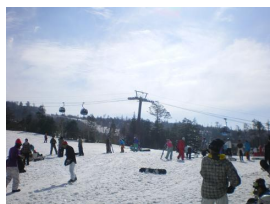
高度差で 150m 程下り、再びスキーを付けて滑り出す。高度も下がり雪が緩んできており、急斜面であったが、この辺りからは安心して滑ることができた。相棒と合流し、先行者のトレースに沿って、ルートを通り取った。樹林帯には入らず、ルンゼを下り続けると大滝が出てきた。先行者はここで止め、トレースは右側の樹林帯へ登り返していた。私達もトレースに従い、樹林帯をスキー場に向けて大きくトラバースした。こんなにスキー場から離れていたのかと思っていた頃、やっとスキー場に出た。以後は、スキー場を快適に滑り、3時前にセンターハウスに到着した。今回は教訓の多い山行であった。



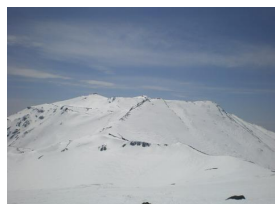
頂上から乗鞍岳を望む

帰りは飛騨側の小坂に向かい濁河温泉に寄って帰ることにした。今の時期、温泉を訪れる観光客は少なく温泉宿も閉まっているところが多かった。奇遇にも同じ温泉宿で、後続していた夫婦の2人づれと一緒にになり、山スキーの話題でしばしゆったりとした身も心も暖まる一時を過ごすことができた。宿の名は「森の仲間」という山小屋風のヒュッテで、18年前、ご主人の長年の夢を実現するため、営業を始められたとのこと。大変気さくなご主人であった。

ホームページへ <http://allmt.jp/infoseek.co.jp/>



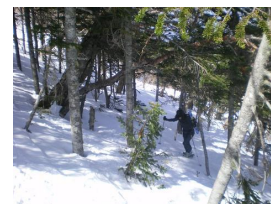
チャオ御岳スキー場



王滝側頂上を望む



継子岳山頂



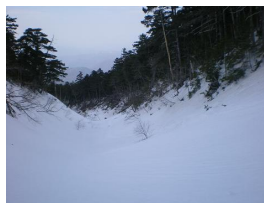
樹林帯を登る



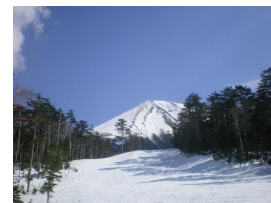
山頂の歌碑



快適に大斜面を滑る



ルンゼを滑る



スキー場から見た継子岳